

ダンスワークショップ 6/29 16:00~18:30 定員20名

shuffleyamambaに出演するダンサー4名がナビゲイトしながら、以下のステップでダンスを踊るためのトレーニングを参加者と共有します。

1. 自分でできるシンプルな自力整体。
2. ヨガの伝統的なポーズを繰り返すことで、呼吸と共に身体のロックを外していき、動くことが自然になる身体を楽しむ。
3. 動きと呼吸の呼応を発展させていき、可動域を広げ、スピード、質感、重力を探っていく。
4. 発見した身体感覚に忠実にアクセスしながら、グルーブの即興ダンスへとつなぐ。

クリエイションワークショップ 6/30 15:00~18:00 定員10名

ソロダンスのクリエイションワークショップ。ダンスを踊ることで、舞台に何かが立ち上がる、その瞬間がライブパフォーマンスの醍醐味です。その瞬間をより濃密に生み出すためのアプローチを探っていきます。目指すのは、見る人により様々に違って見える、予定調和ではないソロダンス。小さなアイデアから自分の踊りを発展させていくために、素材を発掘し膨らませていくプロセスを設定し、クリエイションに必然的な偶然、失敗、突発的なアイデアを呼び寄せるクリエイティブな環境を作ります。最後にひとりずつインフォーマルなショーイングを行います。

ワークショップ講師	余越保子、上野愛実、福岡さわ実、渋谷陽菜、西岡樹里
チケット料金	無料

観劇、WSへの参加申し込みはこちらから ご予約は、電話、ウェブ、電子メール、でお受けいたします。予約開始日時 6/1 10:00

鳥の劇場 電話/ 0857-84-3268 ウェブ/ www.birdtheatre.org 電子メール/ ticket@birdtheatre.org

多くの方に楽しんでいただくために



託児します(無料、要予約)
各プログラムに合わせて、鳥の劇場の子どもルームで託児を行います。
※託児士手配の都合上、必ず3日前までにご予約ください。



バリアフリーをめざします
障がいのある方にもご覧いただきやすいよう、適宜対応しております。
ご予約の際にお伝えください。



字幕あります
台詞が聞こえづらい方のために、手に持てる小さい”字幕”を用意しています。

鳥の劇場へのアクセス

鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話：0857-84-3268

- JRを使って
劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。
※公演日は鳥取駅と浜村駅、ふたつの駅からの送迎を行います。詳しくはバスの欄をご覧ください。
- 浜村駅まで・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分
- 浜村駅から・車で15分
- 車を使って
公演日は会場近くに案内看板を設置します。
・山陰道 鳥取西道路、浜村鹿野温泉IC・瑞穂宝木ICから約10分
・鳥取空港から約30分
・鳥取市中心部から約40分
・倉吉市中心部から約40分
・米子市中心部から約1時間20分



- 東京 飛行機 約1時間15分(羽田空港-鳥取空港)
JR 約5時間30分(東京駅-鳥取駅)
- 京都 JR 約3時間(京都駅-鳥取駅)
車 約3時間(中国自動車道-鳥取自動車道-山陰道 鳥取西道路)
- 大阪 JR 約2時間30分(新大阪駅-鳥取駅)
車 約2時間30分(名神高速道路-中国自動車道-鳥取自動車道-山陰道 鳥取西道路)
- 岡山 JR 約2時間(岡山駅-鳥取駅)
車 約2時間45分(国道53号-鳥取自動車道-山陰道 鳥取西道路)

東京・大阪・神戸・京都・広島・福岡の各都市と鳥取の間で高速バスが運行しています。

主催：特定非営利活動法人鳥の劇場
後援：鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野
助成：文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団

鳥の劇場2019年度プログラム

7月は2つの作品の滞在制作と発表公演を行います。1つ目はNYで振付家・ダンサーとして活躍し、現在は京都を拠点としている余越保子氏と若手を中心としたダンサーによる作品です。滞在期間中に一般に向けたダンスのワークショップも開催します。2つ目は沖縄で「わが街の小劇場」を運営しながら作品発表を続け、2018年利賀演劇人コンクールにおいて優秀演出家賞を受賞した福永武史氏演出の「弱法師」です。



余越保子滞在制作・ダンスワークショップ

<試みるプログラム>

『shuffleyamamba』

振付・構成：余越保子

日時 ワークショップ開催 6/29 16:00~18:30

※詳細は裏表紙をご覧ください

発表公演 7/7 16:30~18:00 無料

会場 鳥の劇場(劇場)

若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

<若手演劇人の成長サポート>

近代能楽集より『弱法師』

作：三島由紀夫 演出：福永武史

日時 発表公演 7/7 14:00~15:30 無料

会場 鳥の劇場(スタジオ)



提供：「利賀演劇人コンクール2018」

余越保子滞在制作・ダンスワークショップ

shuffleyamamba

滞在制作 6/26^水~7/6^日 ワークショップ 6/29^日・30^日

発表公演 7/7^日 16:30~18:00

『shuffleyamamba』は、芸能の継承とは何か、という問いから考えるコンテンポラリーダンスの可能性を、現代女性作家の視点で模索していきます。共同制作者は、アメリカ人の実験音楽作曲家のゲルシー・ベルです。ベルは私が2013年にニューヨークで制作上演した『BELL』に出演、長唄のテクニックを短期間で取得した類い稀な才能を持つヴォーカル・アーティストでもあります。ゲルシーと私は、特に、女性の芸能者、芸能の継承に興味があります。女性のパフォーマンス・アーティストとして生きることがいかに過酷なことを私達は身を持って体験を通して知っています。本作が着眼点を得た能「山姥」に登場する山姥は、フェミニズムを象徴するアイコンと私達は考えます。ダンスと社会の関連性に関心を持つ女性作家として、この壮大な構想のクリエイションにおいて、男女を問わずどんな人間にも内在する「女性性」のエンパワメントを追求していくと同時に、ベルというヨーロッパ系アメリカ人、そして音楽の分野のアーティストとのコラボレーションを通して、東洋、ダンスの視点から見つめるだけではない、日本におけるコンテンポラリーダンスの継承と発展について考えることが可能になると考えます。

余越保子

滞在アーティスト

余越保子、砂山典子、上野愛実、大崎晃伸、福岡さわ実、渋谷陽菜、西岡樹里



若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

弱法師

滞在制作・研修期間 7/1^日~6^日 発表公演 7/7^日 14:00~15:30

利賀演劇人コンクール2018においてこの「弱法師」という作品と向き合う機会を頂いた。「戦争…。」我々はこの言葉に敏感である。そして必ずや目に見えぬ恐ろしさが付きまとう。太平洋戦争時、過酷な地上戦を強いられた傷跡は教育という形で我々の身体に見事なまでに刻み込まれている。そしてこのまざまざとした現実を虚構の世界や物語が易々と超える可能性は限りなくゼロに近い。ゆえに挑戦する。我々の目には何が映っているのだろうか。いま、再び!

福永武史

滞在アーティスト

福永武史、仲嶺雄作、山内千草、上門みき、山本舞子、三宅唯尊

若手演劇人研修事業

若い世代の演劇人が、演劇の特性や演劇人のスキルを活かして社会とどのように関わり、どのように演劇や劇場の可能性を開拓していくのかについて、議論や研修を行います。最終日には発表公演に合わせて、観客の皆さんと研修の成果を共有します。

ゲスト講師：百景社主宰・演出家 志賀亮史

振付家より

ダンスの創作活動をニューヨークから京都に完全に拠点に移してから3年が経ちます。その間に時代は目覚ましい変化を遂げ、いまダンスはさまざまな芸術分野に取り込まれ、芸術表現としてのダンスはかつての輪郭を失うと共に、日本のコンテンポラリーダンスは大きな転換期を迎えています。一方、メディアの影響と、小学校の体育の授業にダンスが導入されることで後押しされ、ダンス好きの若者は増える一方で。誰もができるお気楽なダンスとして地域創生を目的とした広報用PVにコンテンポラリーダンスが起用され、一般の認知度は増しながらも、ダンスの芸術的な影響力は消えつつあります。

日本の古典芸能界は、世襲制度により芸が受け継がれてきました。世襲制のない個人主義の欧米でも、芸の継承は確実に行われています。欧米のダンス史を紐解けばそれは明確です。では、日本のダンスの歴史はどうなのでしょう。今を生きるコンテンポラリーダンサーたちが、日本の舞踊や芸能の歴史から受け継いできたものは何なのでしょう？継承の欠如ゆえに、日本のコンテンポラリーダンスが衰退していったのでしょうか？あるいは、何かほかのものに還元されたのか？この問いに、35年間在住したニューヨークのダンス界で培われたアジア人移民アーティストの目線から、日本のダンスの歴史に客観性と批評性を持ってクリエイションにのぞんでいます。

クリエイションは、基本的に共同作業であり、ダンサーが作品そのものである、という考え方です。このクリエイションプロセスを、今回WSを通して参加者と共有したいと思います。本作品は、今年11月に鳥の演劇祭にて上演されますが、中間発表として、プレビュー公演を行い、上演後に観客とQ&Aを行います。

余越保子



余越保子 Yasuko Yokoshi

広島県出身、京都在住。1996年より2013年までニューヨークをベースに作品を発表しその後拠点を京都に移す。2003年、2006年にベッシー賞を連続受賞。日本とアメリカの文学、歴史、ポップカルチャーを題材にしたダンス作品の他、神戸野田高校創作ダンス部との共同制作、映画の自主制作、1990年森鷗外記念自分史文学賞受賞など、創作活動は多岐にわたる。日本で初めて制作したダンス作品『ZERO ONE』は2014年から2017年まで3年にわたり、クリエイションと発表を重ね、2015年NYでの上演は、NYタイムズ紙「2015年のダンス・ベストテン」に選出。京都造形芸術大学、同志社大学で非常勤講師、NPO法人Dance Box主催・国内ダンス留学@神戸プログラムの振付家養成の講師などを務め、若手アーティストの育成に積極的に取り組む。

演出家より

私たちはわが街の小劇場という客席数十あまりの小さな空間を保有しております。敢えて設備は乏しくし、創意工夫で八年間を駆け抜けて参りました。この小さな空間は多くの方々に育まれ、日々呼吸し、息づいているのです。ただ現在の私は立ち止まっております。沖縄の現代演劇界にひとつの潮流をもたらしたことは確かではありますが、なにやら空虚なのです。その原因は社会との接点にあると考えています。作品を見据えて創作するのではなく、社会を見据えて作品を創作する。その転換期にあるのです。鳥の劇場との出会いを通して、わが街という空間で何が出来るのか、そして社会とどう向き合うのか、その手掛かりを少しでも掴み取りたいと考えています。

福永武史



福永武史 Takefumi Fukunaga

1996年、大学在学中から演劇を始める。劇団コヨーテピストル看板俳優として活躍。郷土沖縄にこだわりつつ、県外の作品も意欲的に挑戦中。第18回読売演劇大賞・最優秀作品賞受賞作品である、NODA・MAP第15回公演「ザ・キャラクター」(東京芸術劇場)に出演。現在、劇団内外問わず、継続的かつ精力的に舞台に立つ。また、演出家・脚本家としても頭角をあらわし、好評を博す。「2018年利賀演劇人コンクール優秀演出家賞」受賞。わが街の小劇場プロデュース作品を演出し、圧倒的な世界観をつきつける。わが街の小劇場(那覇市)管理人。

志賀亮史 Akifumi Shiga

1979年埼玉県生まれ。演出家、百景社主宰。2000年に利賀の演出家コンクールの参加を機に、劇団「百景社」を旗揚げ。以後、百景社の作品ほぼ全ての演出を行う。2009年にイヨネスコ『授業』で利賀演劇人コンクール優秀演劇人賞(演出)を受賞。それ以降、拠点の茨城だけでなく、日本各地、また台湾、中国、韓国といった海外での上演を行うなど、活動の場を広げている。主な演出作品に、『授業』『椅子』(E・イヨネスコ)、『ロミオとジュリエット』(W・シェイクスピア)、『銀河鉄道の夜』(宮沢賢治)、『走れメロス』(太宰治)などがある。